

2020年9月定例県議会

令和元年度奈良県歳出歳入決算認定反対討論

2020・10・16 今井光子議員の討論

日本共産党を代表して議題83号 令和元年度奈良県歳出歳入決算について反対討論を行います。

県民の暮らしは、消費税増税、実施賃金の低下、家計消費の減などコロナによる戦後最悪の落ち込み、失業倒産など先の見えない不安を抱え大変な状況に置かれています。

県の予算は県民の命と暮らしを守るために使うべきと考えます。

当初予算は5600億円ですが、繰越と不用額で50億円にも上っています。その要因として人で不足があるのではないのでしょうか。県の監査で指摘されていますが補助金の事務処理に手間取り、交付決定の日付をさかのぼって処理するなど141例の改善事項が指摘されていますが。必要な人手を確保して予算はきちんと使うべきです。

県単独事業による大型公共施設、120億円のコンベンションセンター、100億円の文化芸術家村など箱物行政が目立ちます。

奈良公園バスターミナルはもとは256台止められた県営駐車場が16台のバスの駐車場に変更され、45億円が使われました。観光業者やバス事業者など関係者の意見も聞かず利用が進んでいません。住民の反対を押し切って作られた奈良公園のホテル、6億円かけた庭園は評判が悪く、歩くのも危険です。

平城京朝堂院広場はイベント広場でにぎわいをとり戻すと3億円かけて湿地帯を埋め立てましたが、今や草が生えてなにも使われていません。これらの事業が本当に必要であったのか、住民の暮らしに役立っているとは思えません。

奈良県市町村財政力は全国ワースト1ですが、市町村振興費10億7788万円が不用額となっており、有効に使うべきと考えます。

奈良モデルは住民不在で地域の自主性や主体性を奪い市町村の活力を弱めることになっていないか検討が必要です。

県は知事が理事長を務めるビジターズビューローに基本財産の75%、1億6250万円を出損（しゅつえん）していますが、その不適切な運営が明らかになりました。理事会が正常に開かれておらず、でたらめな会計処理、給料表にない給料の支給、パワハラの訴えなどがあるにもかかわらず、何の処分もされていません。

食と農の魅力を創造するためにナフィックを作りましたがフードクリエイティブ学科では定員20名を満たしたことがありません。

東京で4億3880万円も支出した「ときの森」は収益が少なく、3月に閉鎖されましたがどれほどの効果があったのでしょうか。最初の効果の指標も定めていませんでした。

農業生産高が全国45位と落ち込む中で県の大事な産業として農業生産をもっと応援することが必要です。

県民の暮らしが大変な中、子供の虐待が増え、一時保護所の利用が急増しています。その費用は保護者の所得によって請求されますが未収金が多く、一般的な債権回収ではない心のかような丁寧な対応が望まれます。保育所、学童ホームなど待機児童の解消が進みません。施設を増やしても待機児童が解消されない背景には、女性の社会進出と、働かざるを得ない経済状況があります。医療、福祉、介護の分野で働く人の処遇改善が求められます。

子どもの貧困が進む中子供が安心して医療が受けられるよう子供の医療費のさらなる拡充を求めます。

奈良県の財政は一部の人のためのものではなく、すべての人が安心して暮らせるよう使うべきと考え、令

和元年度奈良県歳出歳入決算に反対します。

(了)